

コマツ
2015年度第1四半期(4-6月)
決算説明会(電話会議)

2015年7月29日

コマツ出席者

取締役(兼)専務執行役員CFO	藤塚 主夫
常務執行役員経営管理部長	稲垣 泰弘

- 16:00 **ご説明**
2015年度第1四半期決算の概要
 常務執行役員 経営管理部長 稲垣 泰弘
- 16:30 **質疑応答**
- 17:00 **閉会**

2015年度 第1四半期(4-6月)決算の概要

コマツ
常務執行役員 経営管理部長
稲垣 泰弘

【売上・損益】

- ・連結売上高は前年同期比▲3.1%減収の4,461億円。
- ・営業利益は前年同期比▲21.7%減益の497億円。売上高営業利益率は同▲2.7ポイント減の11.1%。
- ・純利益は前年同期比▲13.7%減益の325億円。

金額単位:億円	FY2014/1Q ¥102.5/USD ¥140.9/EUR ¥16.4/RMB	FY2015/1Q ¥121.3/USD ¥133.0/EUR ¥19.6/RMB	前年同期比	
			増減	増減率
連結売上高	4,602	4,461	▲141	▲3.1%
セグメント利益	597	496	▲101	▲17.0%
その他の営業収益(▲費用)	37	1	▲35	-
営業利益	634	497	▲137	▲21.7%
売上高営業利益率	13.8%	11.1%	▲2.7ポイント	-
その他の収益(▲費用)	▲21	12	+33	-
税引前純利益	613	509	▲104	▲17.0%
純利益*	376	325	▲51	▲13.7%

*米国税務会計基準審議会会計基準編纂書810の適用による「当社株主に帰属する四半期純利益」

- 為替レートは、1ドル:121.3円、1ユーロ:133.0円、1元:19.6円です。前年同期に比べて、ドルと元が円安、ユーロは円高となりました。
- 2015年度第1四半期の連結売上高は、前年同期比▲3.1%減収の4,461億円、営業利益は▲21.7%減益の497億円となりました。営業利益率は▲2.7ポイント減の11.1%となりました。
- 純利益は▲13.7%減益の325億円です。

- ・建設機械・車両部門の売上高は、▲3.8%減収の4,027億円。セグメント利益は▲18.4%減益の472億円。セグメント利益率も▲2.1ポイント悪化し、11.7%。
- ・産業機械他部門は増収増益。セグメント利益率は7.3%で同率。

□ : 利益率 () : 外部顧客向け売上高

金額単位:億円	FY2014/1Q	FY2015/1Q	前年同期比	
			増減	増減率
売上高	4,602	4,461	▲141	▲3.1%
建設機械・車両	(4,181) 4,185	(4,020) 4,027	(▲161) ▲158	(▲3.9%) ▲3.8%
産業機械他	(420) 433	(441) 447	(+20) +13	(+4.8%) +3.2%
消去	▲16	▲13	+3	-
セグメント利益	□13.0% 597	□11.1% 496	▲101	▲17.0%
建設機械・車両	□13.8% 579	□11.7% 472	▲106	▲18.4%
産業機械他	□7.3% 31	□7.3% 32	+1	+3.7%
消去または全社	▲13	▲9	+4	-

各セグメントの状況:

■ 建設機械・車両

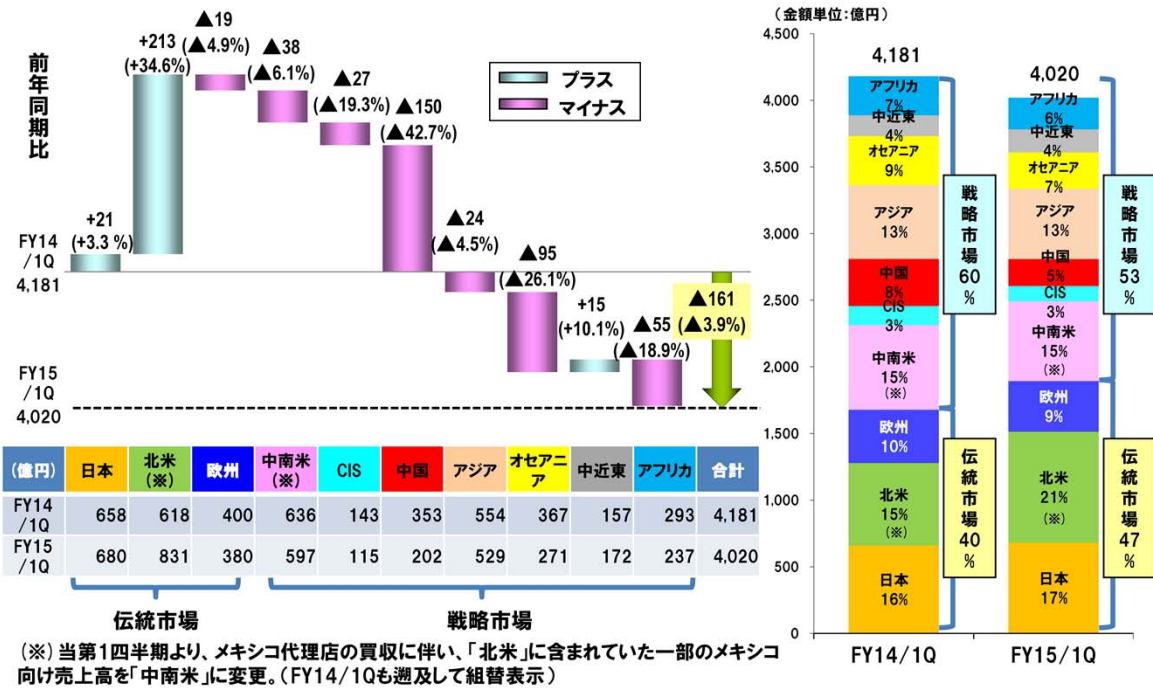
北米や日本において一般建機の需要を着実に取り込んだものの、鉱山機械及び中国を始めとする新興国における需要減少が大きく、減収・減益となりました。

■ 産業機械他

自動車業界向け工作機械の販売が減少したものの、鍛圧機械の販売が前年同期並みに推移したことに加え、半導体業界の好調な設備稼働に支えられ、増収・増益となりました。

- 建設機械・車両の売上高は、前年同期比▲3.8%減収の4,027億円となりました。北米や日本において一般建機の需要を着実に取り込みましたが、鉱山機械及び中国を始めとする新興国における需要・販売の減少が、大きく影響しました。
- セグメント利益は▲18.4%減益の472億円です。
- 産業機械他は、売上高は、前年同期比+3.2%増収の447億円、セグメント利益は、微増の32億円となりました。自動車業界向けの工作機械の販売が減少しましたが、鍛圧機械の売上が前年同期並みに推移したことと、半導体業界の好調な設備稼働に支えられたことが寄与し、前年同期比増収増益となりました。

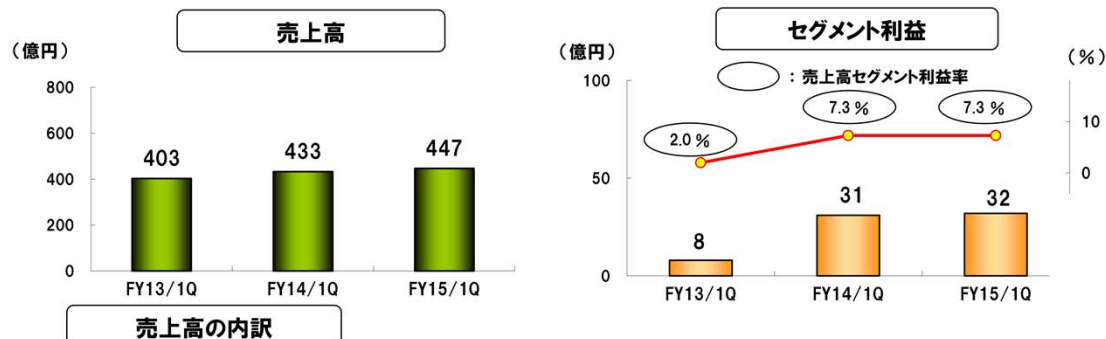
・外部顧客向け売上高は前年同期比▲3.9%減収の4,020億円。
 ・北米が伸長したものの、鉱山機械や中国・オセアニア等での減少が大きく、伝統市場の比率が47%に増加。



□建設機械・車両の売上高は、前年同期比▲3.9%減収の4,020億円となりました。

□北米が伸長したものの、鉱山機械や中国・オセアニア等での売上減少が響き、前年同期比で減収となりました。その結果、構成比では、伝統市場の比率が増加し、47%となりました。

・自動車業界向け工作機械の販売が減少したものの、鍛圧機械の販売が前年同期並みに推移したことに加え、半導体業界の好調な設備稼働に支えられたギガフオン(株)の売上げが伸長したことが寄与し、売上高は前年同期比+3.2%増収の447億円、セグメント利益率は前年同期と同率の7.3%。



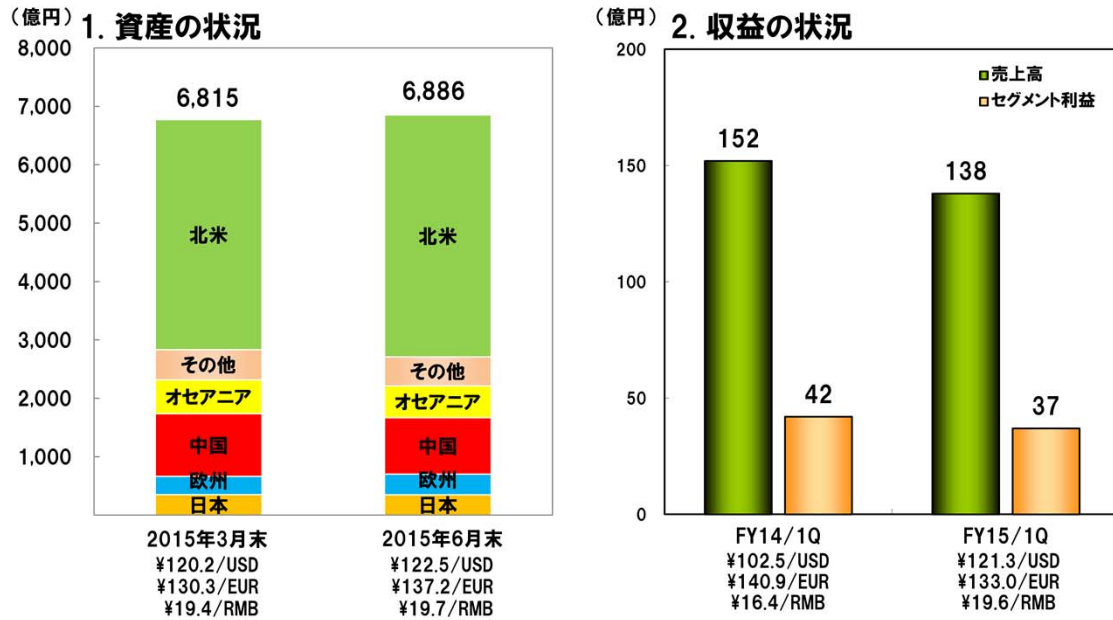
売上高の内訳

金額単位:億円	FY13/1Q	FY14/1Q	FY15/1Q	前年同期比	
				増減	増減率
コマツ産機等 (プレス事業合計)	92	133	128	▲4	▲3.7%
コマツNTC [うち、ワイヤーソー]	167 [12]	167 [19]	140 [11]	▲26 [▲8]	▲16.1% [▲42.6%]
その他 [うち、ギガフオン] [うち、コマツハウス]	143 [62] [29]	132 [65] [25]	178 [83] [37]	+45 [+17] [+11]	+34.5% [+27.4%] [+45.1%]
合計	403	433	447	+13	+3.2%

- 産業機械他部門では、売上高は前年同期比+3.2%の447億円となりました。
自動車業界向けの工作機械の販売が減少したものの、鍛圧機械の販売が前年同期並みに推移したことに加え、半導体業界の好調な設備稼働に支えられ、ギガフオン(株)の売上げが伸長したことが寄与しています。
- セグメント利益は32億円、セグメント利益率は前年同期と同率の7.3%となりました。

- ・資産は円安の影響により前年度末比で微増。
- ・売上高は主にチリのリース会計処理変更(本体+金利→金利のみ)により減収、利益は戦略市場の資産減に伴い減益。

リテールファイナンス子会社の状況



□リテールファイナンス子会社の総資産は、前年度末に比べ約+71億円増加し、6,886億円となりました。為替の影響が+127億円含まれており、実質は▲56億円の減少です。

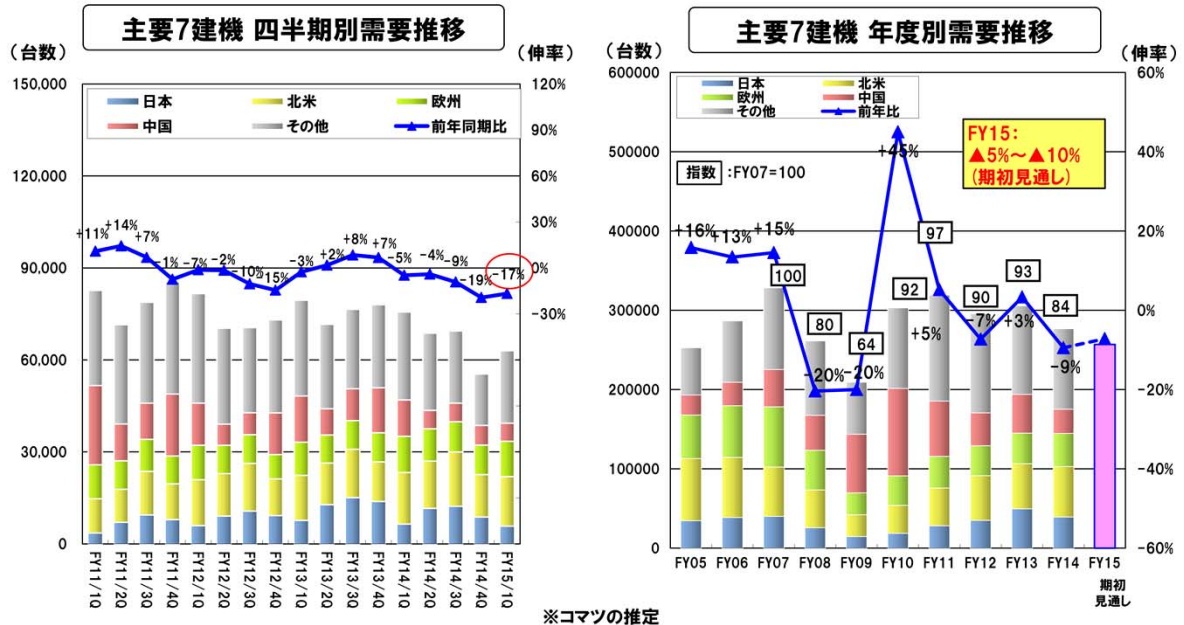
□売上高は主にチリのリース会計処理変更(本体+金利→金利のみ)により減収、利益は戦略市場の資産減に伴い減益となりました。

- ・総資産は、円安の影響等により前年度末比で+28億円の増加。
- ・株主資本比率は同+1.1ポイント増の55.7%。ネットD/Eレシオは0.32と、前年度末と同レベル。

(金額単位:億円) ○:ネットD/Eレシオ	2015年3月末 ¥120.2/USD ¥130.3/EUR ¥19.4/RMB	2015年6月末 ¥122.5/USD ¥137.2/EUR ¥19.7/RMB	増減
現金・預金(含む定期預金) [a]	1,073	1,091	+18
受取手形・売掛金(含む長期売上債権) <除くリテールファイナンス会社>	9,002 <3,981>	8,882 <3,715>	▲119 <▲266>
棚卸資産	6,228	6,409	+180
有形固定資産	7,439	7,546	+107
その他資産	4,240	4,083	▲157
資産合計	27,984	28,012	+28
支払手形・買掛金	2,250	2,097	▲153
借入金・社債 [b] <除くリテールファイナンス会社>	5,891 <902>	6,100 <921>	+209 <+18>
その他負債	3,856	3,507	▲349
負債合計	11,999	11,705	▲293
(株主資本比率)	(54.6%)	(55.7%)	(+1.1ポイント)
株主資本	15,289	15,592	+302
非支配持分	695	714	+19
負債及び純資産合計	27,984	28,012	+28
ネットベースの借入金・社債 [b-a]	○0.32 4,818	○0.32 5,008	+190
ネットD/Eレシオ(リテールファイナンス会社を除いた場合)	▲0.00	▲0.01	

- 総資産は前年度末比で、+28億円増加しましたが、為替の影響が+420億円あり、これを除けば、実質は約▲392億円の減少です。
- 棚卸資産は、前年度末比で+180億円増加しています。為替の影響+141億円を除くと+39億円と微増しました。
- 借入金・社債は+209億円増加しましたが、為替の影響が+70億円含まれています。現金・預金とネットしたベースでは+190億円の増加です。
- 株主資本比率は同+1.1ポイント増の55.7%となりました。
- ネット・デット・エクイティ・レシオは0.32で、前年度末と同レベルでした。また、リテールファイナンス会社を除いた場合のネットD/Eレシオは、ほぼゼロを維持しています。

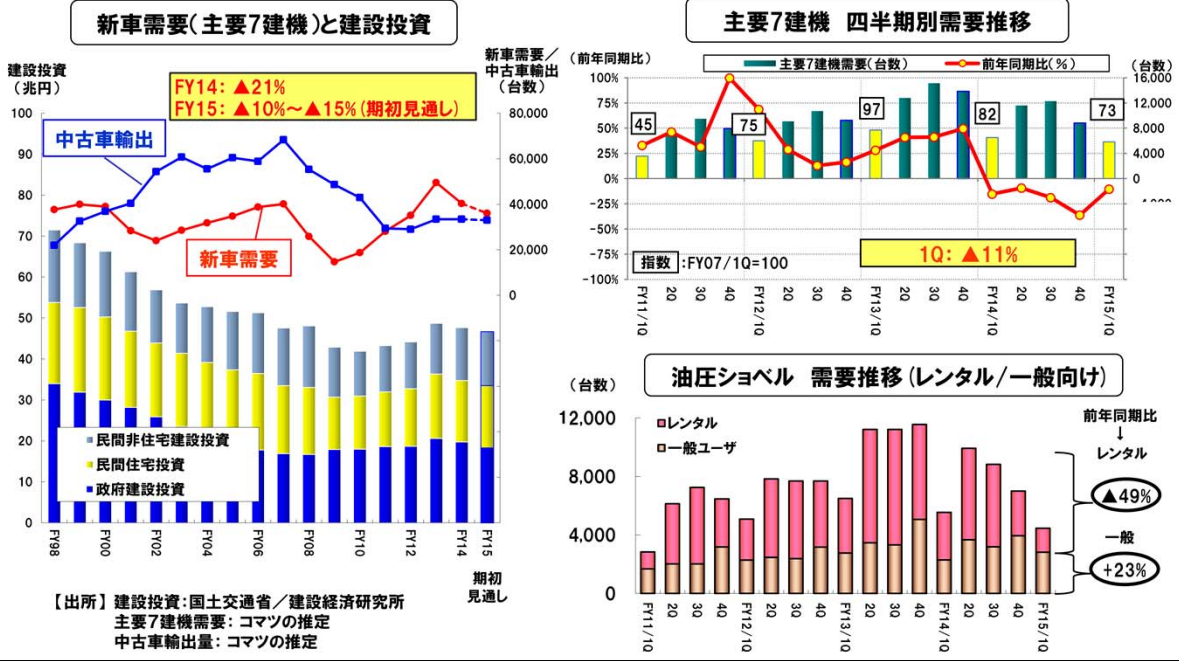
- ・2015年度第1四半期の需要は、前年同期比▲17%。
- ・一部堅調な地域はあるものの、中国やCISをはじめとする戦略地域の需要減少が、大きく影響。



□2015年第1四半期の世界需要は、前年同期比▲17%減少の見込みです。

□一部堅調な地域はあるものの、中国やCISをはじめとする戦略地域の需要減少が大きく響いています。

- ・2015年度第1四半期の需要は、前年同期比▲11%。
- ・油圧ショベルのレンタル向け需要が引き続き大幅減。

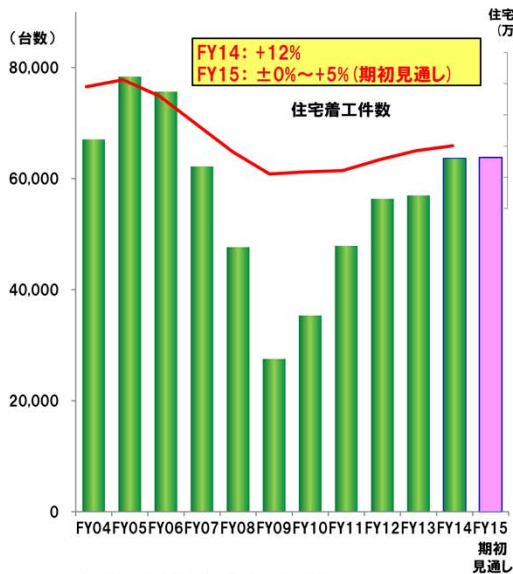


□2015年第1四半期の日本の需要は、前年同期比▲11%減少しました。

□排ガス規制関連の反動減が想定以上に大きく出ています。

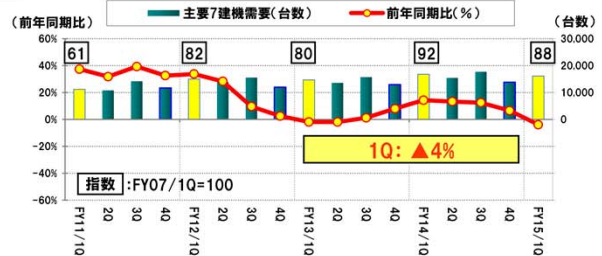
- ・2015年度第1四半期の需要は、前年同期比▲4%。
- ・住宅建設および道路などのインフラ分野向けの需要は堅調に推移しているが、鉱山・エネルギー分野向け需要は低調に推移。

主要7建機 需要推移と住宅着工件数

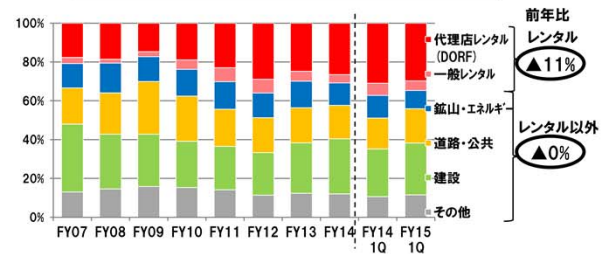


【出所】 主要7建機需要:コマツの推定

主要7建機 四半期需要推移



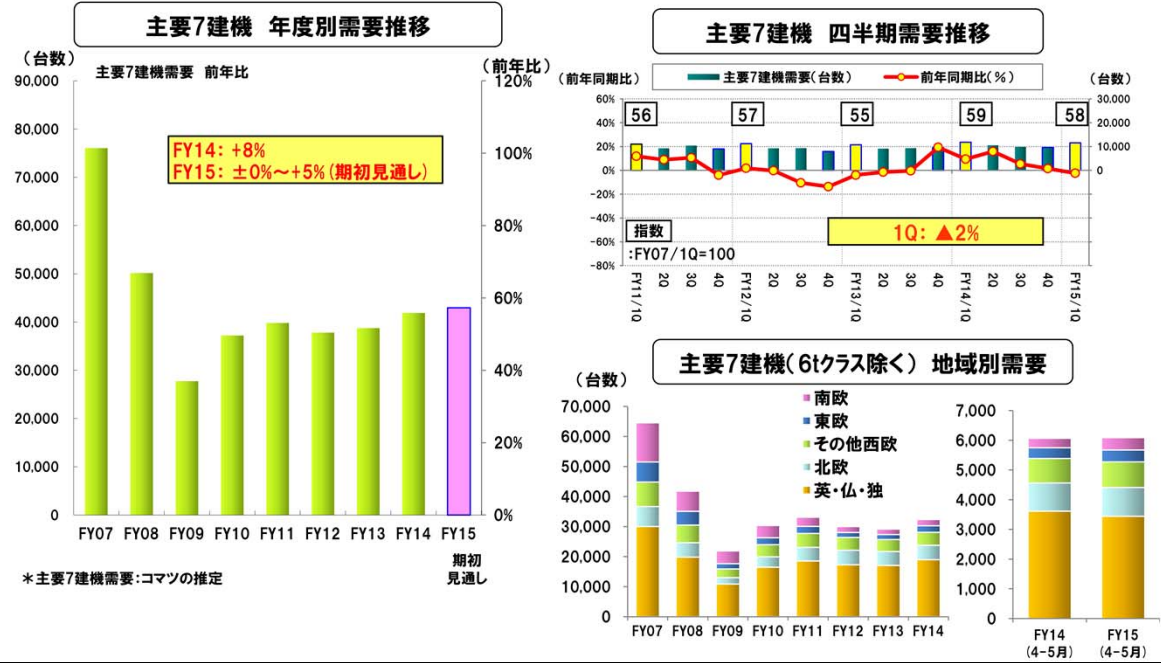
セグメント別需要構成比 (台数ベース)



□2015年第1四半期の北米の需要は、代理店レンタルを含むレンタル向け需要のマイナスが大きく、前年同期比▲4%減少しました。
但し、依然として、過去と比較して高いレベルにあります。

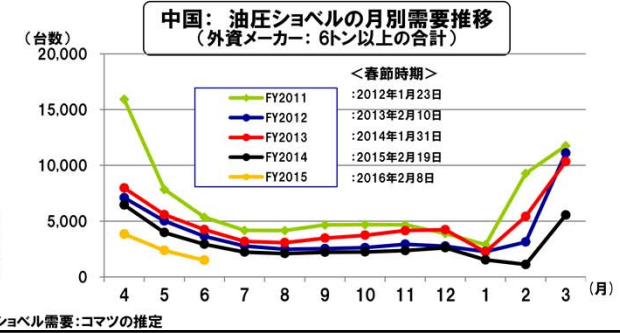
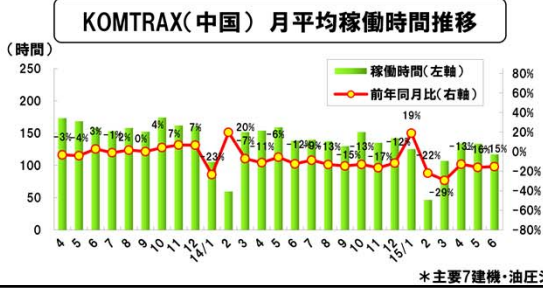
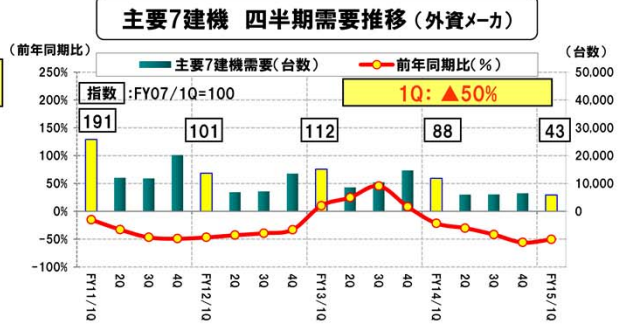
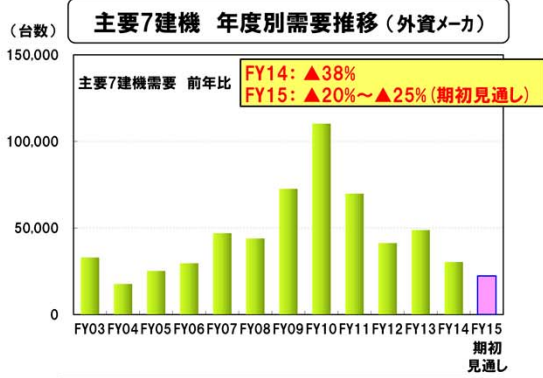
□レンタル以外の一般の需要は、鉱山向けやエネルギー向けの需要が低迷しましたが、住宅建設及び道路などのインフラ分野向けの需要が堅調に推移しております。

・2015年度第1四半期の需要は、前年同期比▲2%。



□2015年第1四半期の欧州の需要は、前年同期比▲2%減少の見込みです。

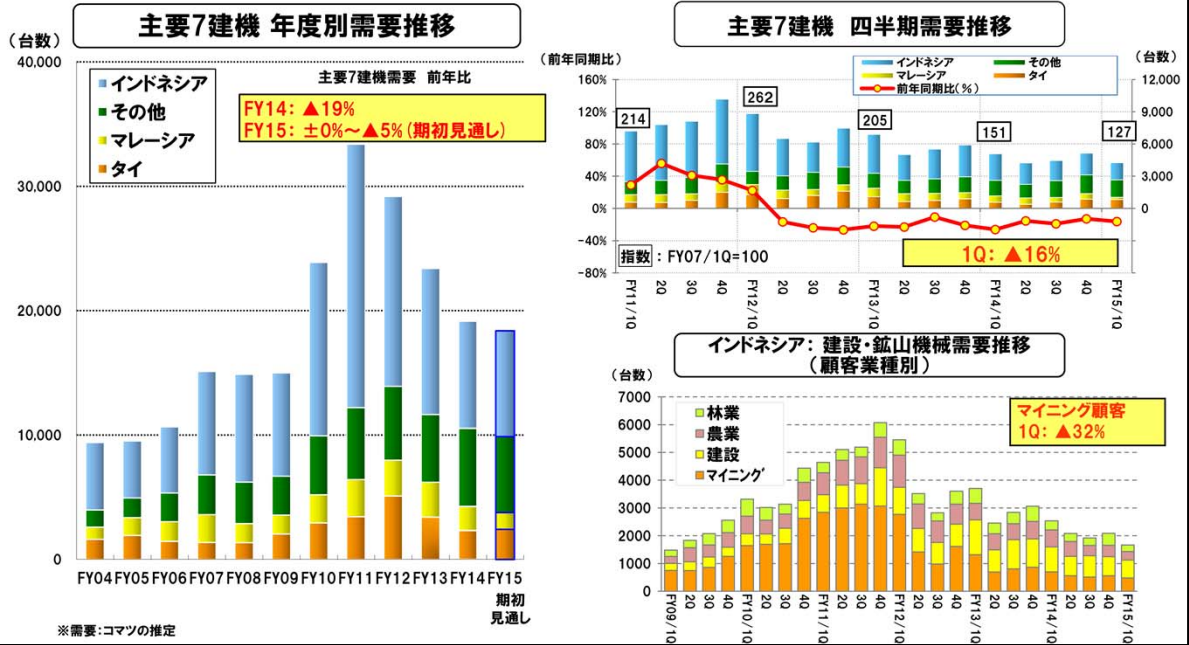
- ・2015年度第1四半期の需要は、前年同期比▲50%。
- ・政府による景気刺激策の効果は見えず、引き続き大幅に需要が減少。



*主要7建機・油圧ショベル需要: コマツの推定

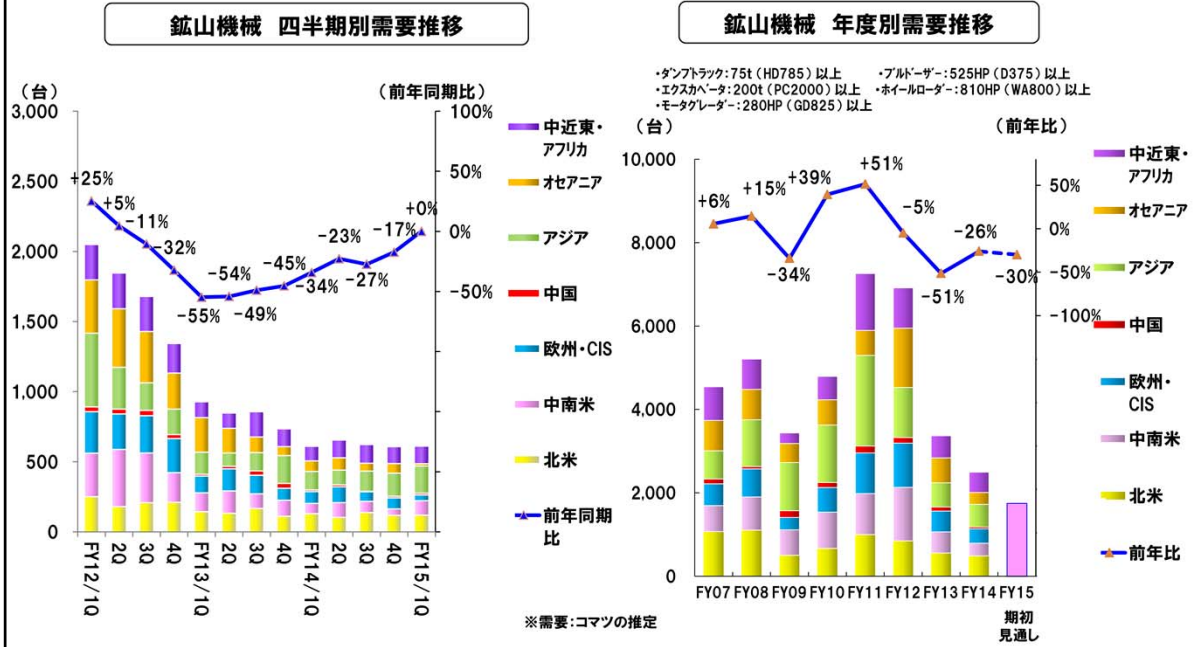
□2015年第1四半期の中国の需要は、前年同期比▲50%減少しました。

- ・2015年度第1四半期の需要は、前年同期比▲16%。
- ・タイでの需要が伸長したものの、最大市場のインドネシアやマレーシアでの落ちこみの影響大。



- 2015年第1四半期の東南アジアの需要は、前年同期比▲16%減少の見込みです。
- タイでの需要が伸長した一方で、最大市場のインドネシアやマレーシアで需要が依然低迷しています。

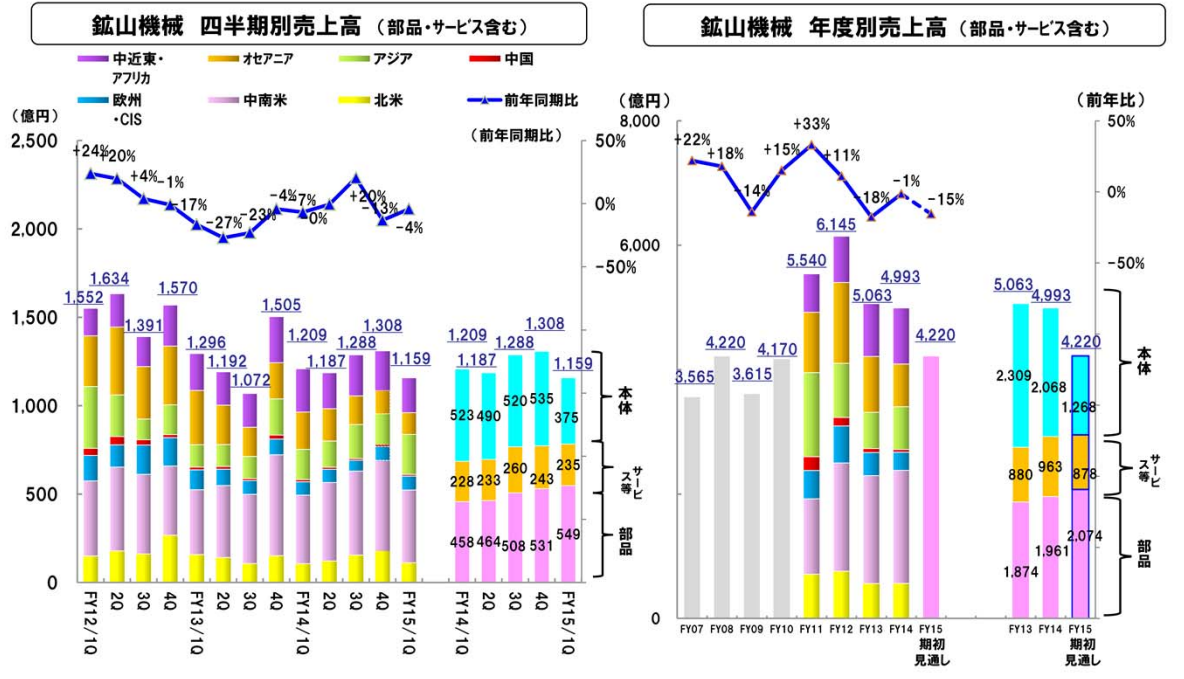
- ・2015年度第1四半期の鉱山機械の世界需要は、前年同期比横ばい。
- ・受注は引き続き低調。



□2015年第1四半期の鉱山機械の需要は、前年同期比横ばいとなった模様です。

□ただし、引き続き、鉱物価格が低迷し、ユーザの投資マインドが冷え込んでいる状況下、更新需要の増加を考慮しても、需要全体の回復は2017年度以降になる可能性も高いと考えます。

- ・本体販売が引き続き低迷し、鉱山機械の売上高は前年同期比▲4%減の1,159億円。
- ・部品、サービス等は前年同期比増収。

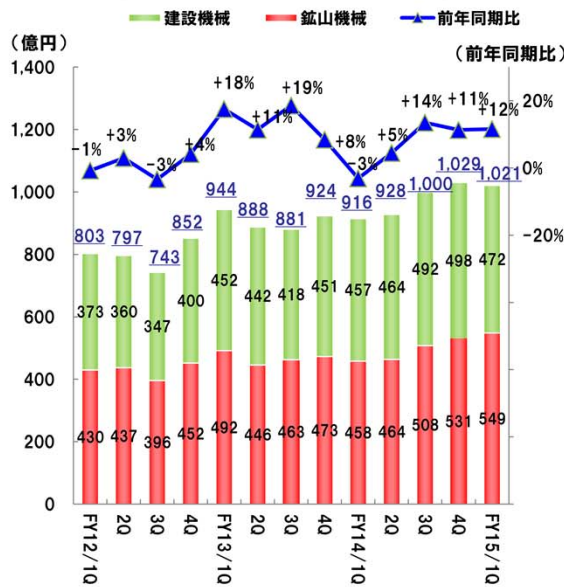


□2015年第1四半期の鉱山機械の売上高は、前年同期比▲4%減の1,159億円となりましたが、為替の影響を除くと▲12%のマイナスでした。

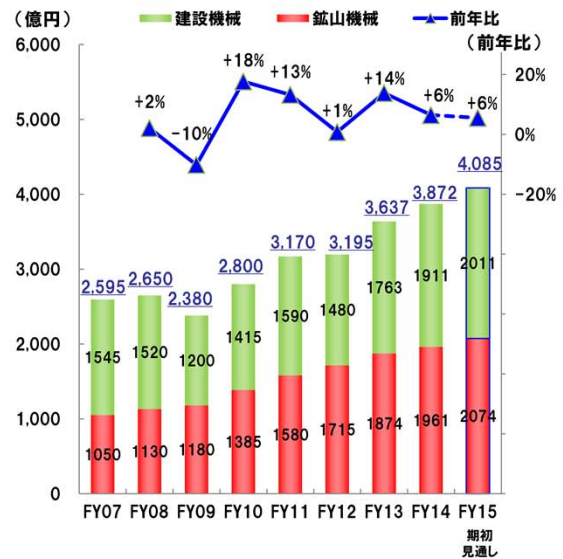
□本体売上高が大きく落ち込んだ一方で、部品売上高は好調で、為替による影響を除いても前年同期比でプラスとなりました。

- ・部品売上高は前年同期比+12%増の1,021億円。
- ・建設・鉱山機械の新車需要が落ち込む中でも、アフターマーケットの需要を確実に取り込んだ結果、当期の売上は伸長。

四半期別 部品売上高推移



部品売上高

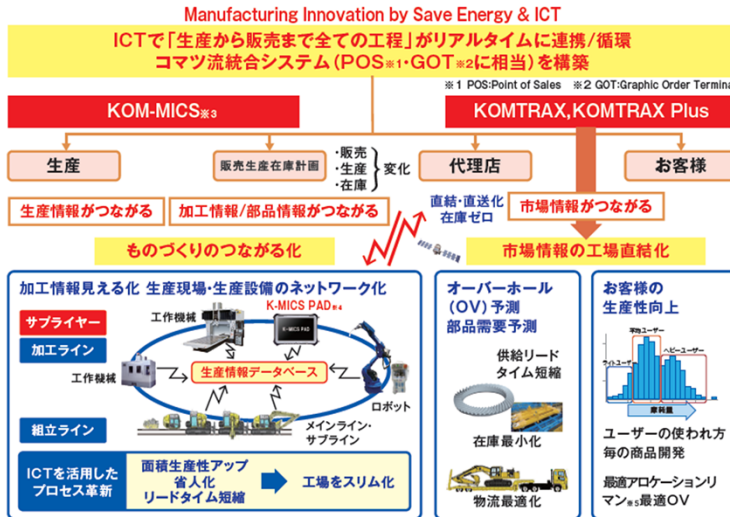


- 2015年第1四半期の部品の売上高は、前年同期比+12%の1,021億円、為替の影響を除くと+3%の伸びとなりました。
- 建設・鉱山機械の新車需要が落ち込む中でも、アフターマーケットの需要を確実に取り込んだ結果、当期の売上は伸長しました。

〈IoTでモノ作り強化〉コマツ流「つながる化」による生産改革に着手

ICT (情報通信技術) の活用により生産から販売までの全ての工程がリアルタイムに連携・循環する「つながる化」を目指すことで、これまでに無い新たな生産改革に着手します。国内工場においては2011年度から「電力使用量の半減」を目標に大規模な生産改革に取り組んでいますが、この活動にIoT (Internet of Things) で見える化した様々な情報の「つながる化」をコンセプトに加えることで、安全性、生産性の飛躍的向上を図ります。また、市場情報を工場に直結化し、お客様の課題解決に工場が積極的に関与していく生産体制の構築を進めます。

コマツ流「つながる化」の目指す方向



※3 KOM-MICS：コマツのつながる工場概念
※4 K-MICS PAD：設備をネットワーク対応化する外付のコントローラー（自社開発）

※5 リマン：コンポーネントの再生を意味するRemanufacturingの略語

1. モノ作りのつながる化

工場における工作機械やロボットなど生産設備や生産ラインの稼働情報をIoTにより見える化し、共有データベースに集約します。集約された情報に基づき、生産工程の改善案を立案して、面積生産性向上、省人化、および生産リードタイムの短縮を実現します。

2. 市場情報の工場直結化

装着台数が本年5月末時点で38万台を超えた機械稼働管理システム「KOMTRAX」と、鉱山機械管理システム「KOMTRAX Plus」を通じて市場情報を工場に直結化します。



コマツインディア(有)(KIPL)の油圧ショベル新工場(5月8日開所式開催)

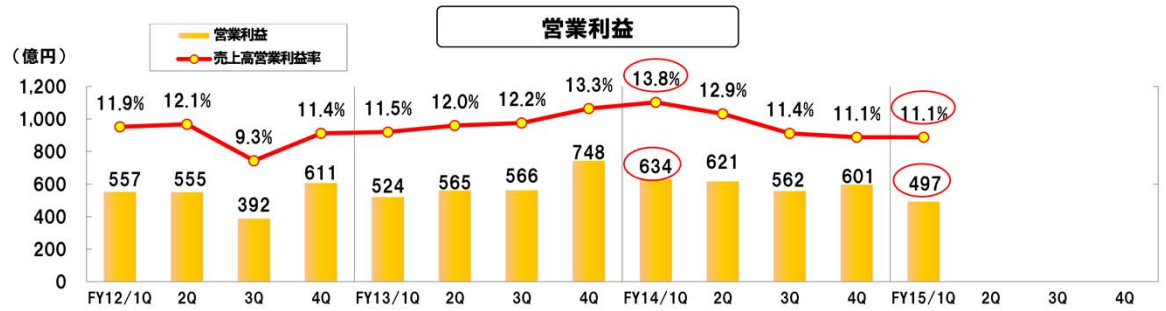
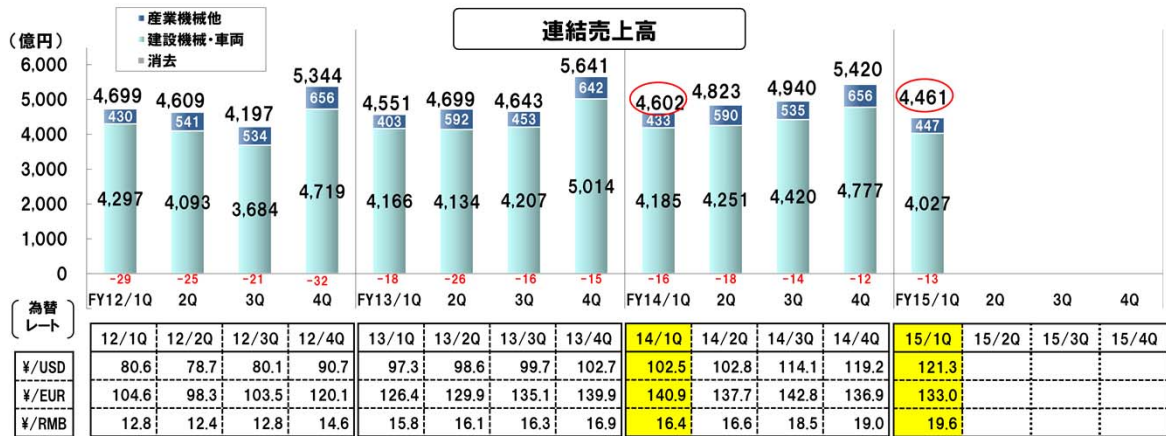
【見通しに関する注記事項】

本資料に記載されている、当期ならびに将来の業績に関する予想、計画、見通し等は、現在入手可能な情報に基づき当社の経営者が合理的と判断したものです。実際の業績は、様々な要因の変化により、記載の予想、計画、見通しとは大きく異なることがあります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。

コマツ 経営管理部 TEL: 03-5561-2687
FAX: 03-3582-8332
<http://www.komatsu.co.jp/>

【参考資料】

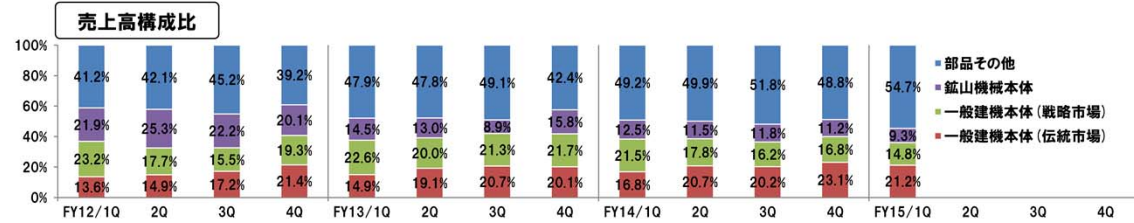
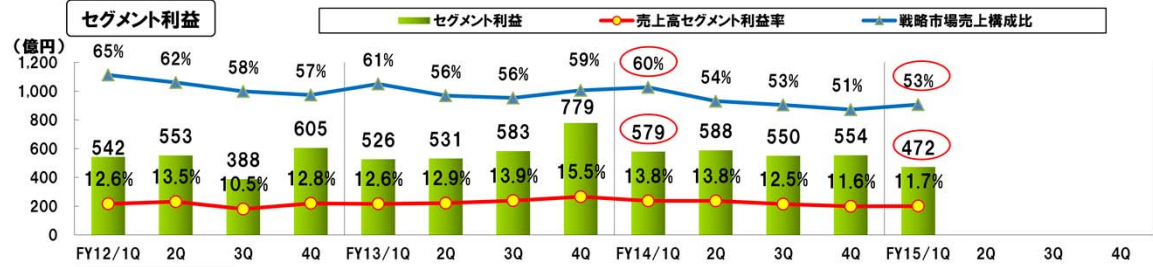
四半期毎の売上高と営業利益の推移



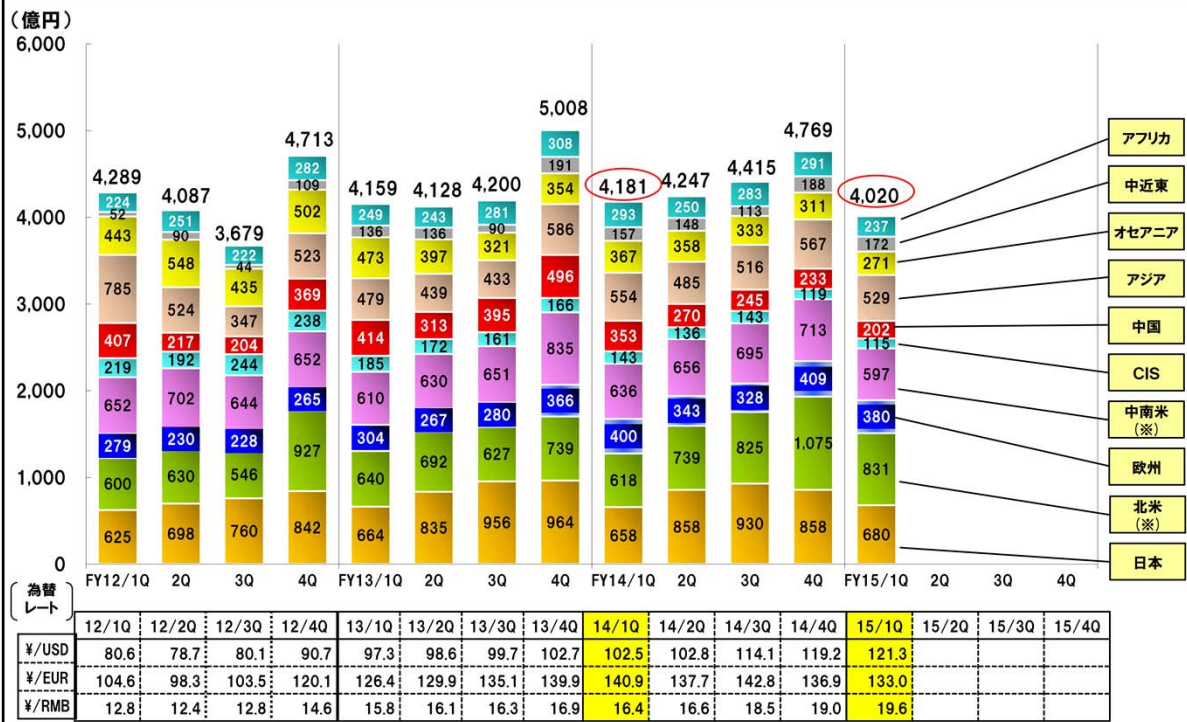
<建設機械・車両> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移



	12/1Q	12/2Q	12/3Q	12/4Q	13/1Q	13/2Q	13/3Q	13/4Q	14/1Q	14/2Q	14/3Q	14/4Q	15/1Q	15/2Q	15/3Q	15/4Q
¥/USD	80.6	78.7	80.1	90.7	97.3	98.6	99.7	102.7	102.5	102.8	114.1	119.2	121.3			
¥/EUR	104.6	98.3	103.5	120.1	126.4	129.9	135.1	139.9	140.9	137.7	142.8	136.9	133.0			
¥/RMB	12.8	12.4	12.8	14.6	15.8	16.1	16.3	16.9	16.4	16.6	18.5	19.0	19.6			

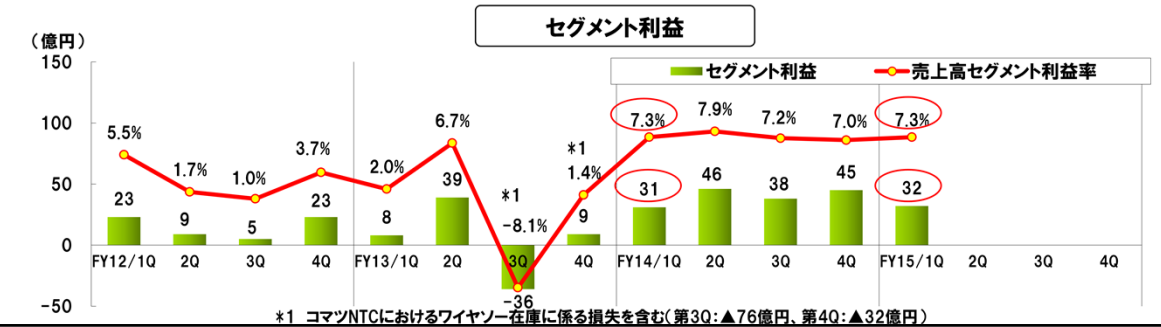
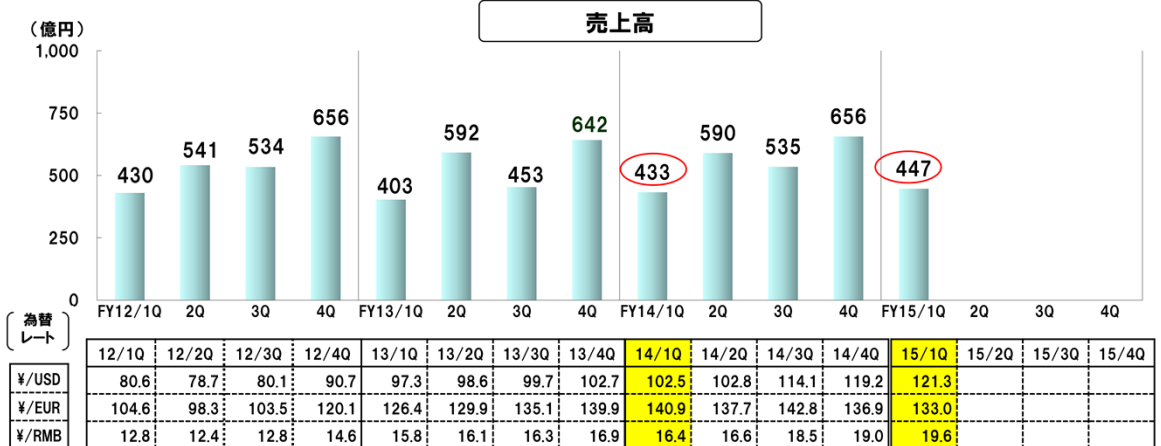


<建設機械・車両> 四半期毎の地域別売上高(外部顧客向け)

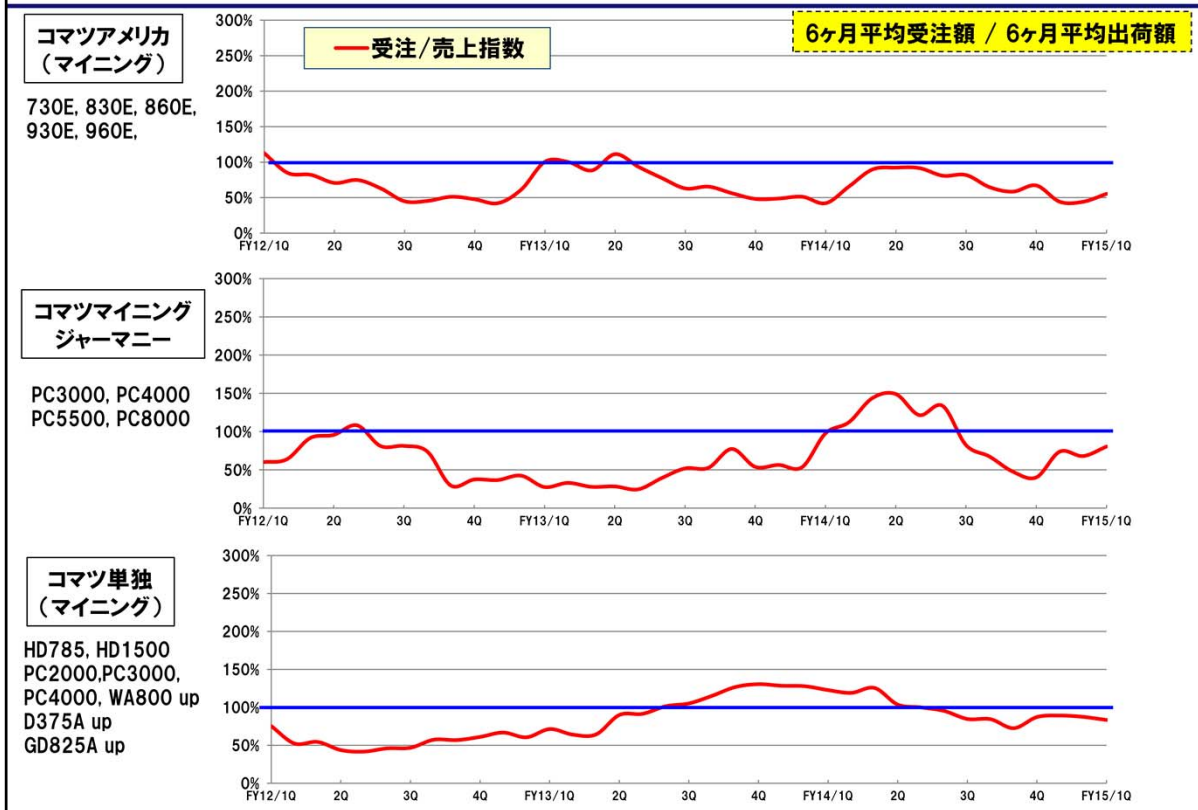


(※) 当第1四半期より、メキシコ代理店の買収に伴い、「北米」に含まれていた一部のメキシコ向け売上高を「中南米」に変更。(FY14/1Qも遡及して組替表示)

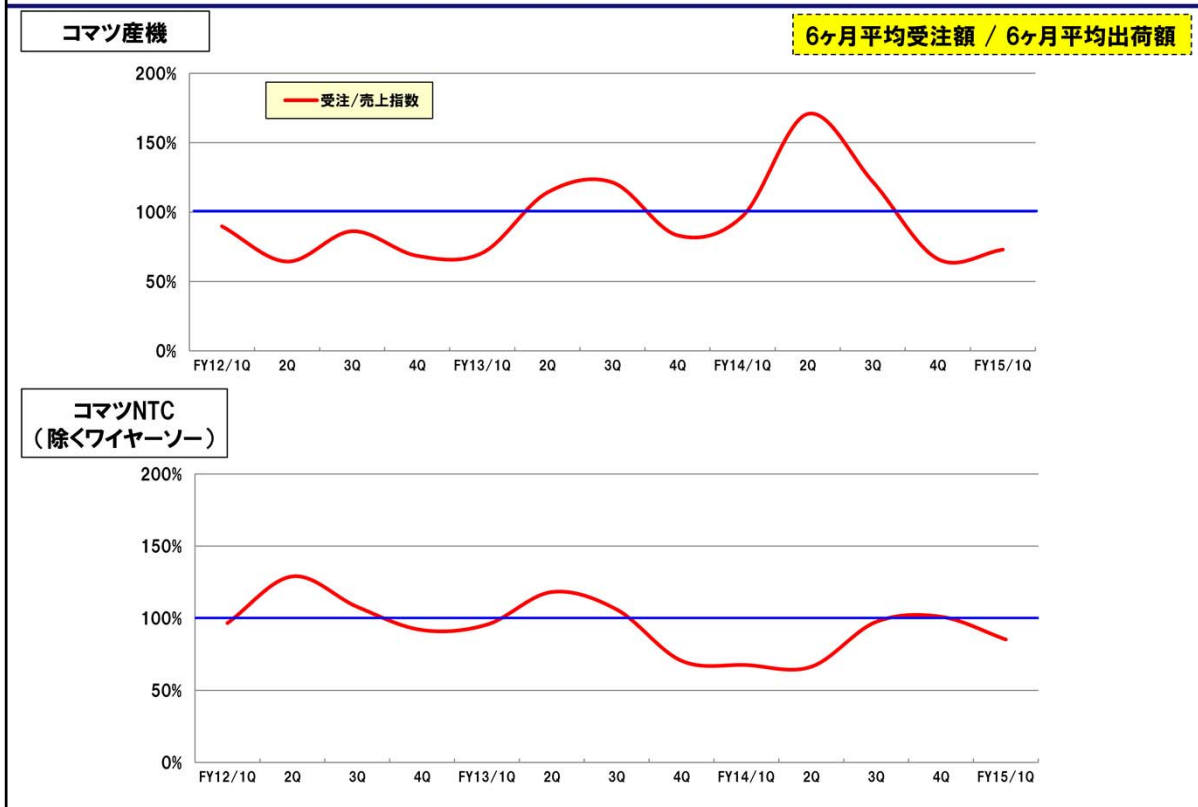
<産業機械他> 四半期毎の売上高とセグメント利益の推移



鉱山機械(本体) 受注/売上指数(6ヶ月)



- 鉱山機械新車の、受注と売上の指数の推移を示しております。
- グラフは、直近6ヶ月間の新車の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。
- 上段のコマツアメリカのダンプの状況ですが、第1四半期の受注は引き続き低調で、指数は60%を下回るレベルです。
- 中段のドイツで製造する超大型のH/Eの状況も、引き続き受注が少なく、指数は80%です。
- 下段の日本で製造するその他の鉱山機械の状況ですが、こちらも引き続き受注は低調で、指数は80%です。



- 産業機械の、受注と売上の指数の推移を示しています。グラフは、直近6ヶ月間の受注額を、同じく6ヶ月間の売上高で割った指数の推移です。
- コマツ産機の板金・鍛圧事業の受注の状況は、第1四半期で中・大型の鍛圧機械の受注が低調で、指数は約70%です。
- コマツNTCのワイヤーソー以外の受注と売上の指数は、自動車メーカー向け受注が引き続き弱く、指数は90%を下回るレベルです。